

# よみがえれ！能見堂

能見堂跡地再生プロジェクト活動報告書



金沢街づくりの会・能見堂跡地再生プロジェクト編

## 目次

はじめに	3
第1章 NKD 活動目標とその成果（2010年3月末における能見堂跡の姿）	
1-1.眺望の回復	5
1-2.石碑の設置	5
1-3.説明板の設置	7
1-4.道案内板の充実	8
第2章 NKD 活動の経緯	
2-1.能見堂と金沢八景の歴史	9
2-2.能見堂の所在地	10
2-3.公園法上の位置付けと管理	11
2-4.活動全体の流れ	12
2-5.要望項目ごとの推進経緯	14
2-5-1.樹木の剪定	14
2-5-2.石碑の移動	18
2-5-3.説明板の設置	20
2-5-4.案内板の設置	23
おわりに	26
付録	
1.【活動年表】	27
2.【掲載資料提供】	28
3.【関係者名簿】	29

## はじめに：

この活動の核となった金沢街づくりの会は1995年9月に設立され、金沢の歴史研究に基づく街づくりの提案をしようとするグループである。広報で募った参加者を案内して今は埋め立てにより消えてしまっている昔の海岸線を歩くなど、金沢を知るための活動をしてきた。

2004年に次年度の活動テーマを検討した際に、金沢区のシンボルとして語られる金沢八景をもっと現実の景色として感じられる街にできないかという提案があり、金沢八景を現代に蘇らせようと考えた。しかしながら、金沢の景観は江戸時代とは大きく変わってしまっている。どのようにすれば蘇ることになるのかと考えたとき、求めているものは必ずしも八つの景色ではなく、かつての景勝の地としての金沢であることに気付き、江戸時代から昭和の前半にかけて注目を浴びてきた色々な場所を復活させて行くことに思い到った。

そこまで考えた上で最初に手を付けるべきことを検討してみれば、やはり金沢の地を有名にした根元の地でありながらも放置されているように見える能見堂跡から手がけるべきであろうということになった。

能見堂は17世紀に中国の僧、心越禅師（しんえつぜんし）がここからの眺めの素晴らしさを詠んだことから金沢八景の発祥の地として知られており、江戸時代にはここからの眺めを歌川広重も描いている。しかしその後、泥亀新田の埋立て等で景色は大きく変わった。また、ここを通る山道は、明治時代までは金沢から保土ヶ谷を経て東京へとつながる主要道であったが、今の国道16号ができてからはその役割も大きく変わり、能見堂跡はこれらの社会環境が変化する中で忘れられた存在になっていった。

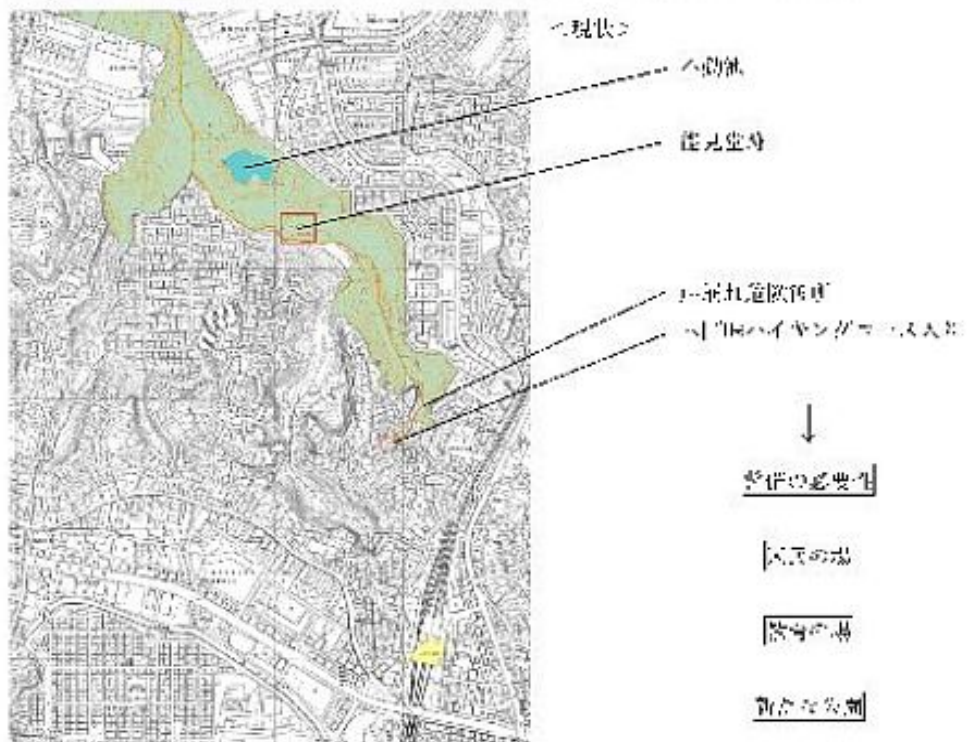
かつての観光地だけあって、150年近く前の明治時代に能見堂から撮られた写真がある。それらと今の景色を見較べたところ、伸び過ぎた木を手入れすることにより昔の眺望が取り戻せることを発見した。また、ここからだ金沢の街の姿の変遷が手に取るように判ることも知った。景色がどのように変わってきたかが視覚的に実感できる場所である。

永らく顧みられることのなかったこの場所を整備することによって、金沢区内の人達に再度自分達の街のあり方を考えてもらうきっかけを提供することができ、小中学生などには地域や歴史教育のための新たな場所を提供することになり、歴史好きの人達がその知識を持って能見堂跡に登れば、その眺めからこの街への理解と愛着がいつそう深まるものと思われる。かつてのような美しい景観は望むべくもないが、歴史的な眺望を取り戻して、再び人が集う場所としようというのが「金沢街づくりの会・能見堂跡地再生プロジェクト」（以下 NKD と略す）である。

2005年以降プロジェクトとして推進した結果、2010年3月にほぼ事業の完成を見たので、ここにその活動の経緯を記録しておく。

金沢街づくりの会・能見堂跡地再生プロジェクト  
リーダー 鈴木祥三

能見堂跡地再生プロジェクト 能見堂跡地再生プロジェクトの再生計画



■ 歩道の整備

歩道の整備や歩道橋による歩行経路の確保など、新たな住民たちからの注文となり、人の足が向かない低地にあって、歩道が不足している。地盤沈下の能見堂周辺の歩道の豊かさ、歩道橋、歩道、歩道橋など、歩道整備としての文化を継承していくためにも、歩道の整備が必要とされる。

■ 公園の場

公園の場は、多くの大規模な公園が存在するが、そのほかにも、環境創造が管理されている。このように、能見堂跡地、の場は全区画にあり、ハイキングコースも整備されている。また、歩道の整備が実現されるべきである。

■ 教育の場としての役割

豊かな自然環境、歴史や文化の継承が行なわれて、未来を担う子ども達の存在が大切だ。また、歩道整備の場などを利用して、地域の文化が育ち、各学校によって様々な教育、地域の歴史と文化を学ぶ場として整備を行なうことで、歩道の整備が実現される。また、ハイキングコース、海外学習・視察学習などの教育の場として活用されることとなる。

■ 新たな役割の創出

歩道を学ぶと共に、能見堂跡地、からまちを学ぶことでも、歩道を歩けば、この地からまちへの愛が広がる。歩道が整備されている歩道でも、歩道の整備だけでなく、その歩道の歴史、その歩道の歴史を最大の魅力として整備していくことで、歩道の整備は実現される。また、歩道の整備としての「歩道の創出」を創出していくことができるのではないだろうか。

平成 22 年 2 月 27 日 金沢市つくりの会、能見堂跡地再生プロジェクト

【文書 1】 2006 年に作成した企画書

## 第1章 NKD 活動目標とその成果

（2010年3月末における能見堂跡の姿）

NKD（金沢街づくりの会・能見堂跡地再生プロジェクト）が具体的に実現を目指したのは以下の4項目である。

1. 眺望を回復するために樹木を剪定する。
2. 石碑や歌碑などを元あった場所に戻す。
3. 歴史ある場所としての説明板を設置する。
4. 区外の人を訪れるための道案内板を充実させる。

区役所と協働で跡地を整備した結果は以下の通りである。

### 1-1. 眺望の回復

江戸時代に能見堂がにぎわった最大の理由はその眺望にあったことから、樹木を剪定して眺望を確保することが重要と考えたが、剪定作業は一部の枝についてのみ行われた。従って現在も木に囲まれて周囲の景色が何も見渡せない状況のままである。



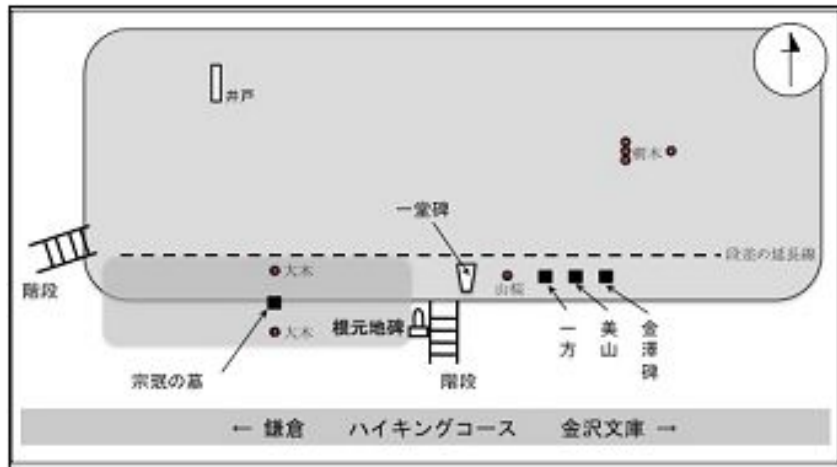
【図1】江戸時代の能見堂からの眺め



【写真1】繁茂した樹木に囲まれている現在の能見堂跡

### 1-2. 石碑の設置

江戸時代の能見堂にはいくつもの石碑が並んでいたことが知られている。それらの石碑のうち4基については別の場所に保存されていたので、この機会に元の場所に置くことを提案し、一方句碑、武蔵国金澤碑、山室宗珉居士墓碑、江耆楼美山句碑を能見堂跡に移設した。



【図2】石碑配置図



【写真2】左より武蔵国金澤碑、江耆楼美山句碑、一方句碑



【写真3】山室宗珉居士墓碑

元々の石碑があった場所についての正確な記録はないので、今回の企画では能見堂跡に集めて開示することを主に考え、設置場所は江戸名所図会を参考にしながらも、海を背に直線的に並べることにした。



鈴木宗珉居士

碑については上記の3基の石碑とは異

なり、筆捨松の根元にあったとされてお【図3『瀬戸編 断図度のかげ』1732年に記述あり）、1982年の横浜市教育委員会による発掘調査の際に骨壺に入った骨が見つかった場所がその記述と一致することから、今回の場所とした。碑の向きに関しては、宗珉が眺望の素晴らしさからここへの埋葬を希望していたことから、瀬戸橋を臨むような向きとした。

### 1-3. 説明板の設置

歴史ある重要な場所にもかかわらず、それまで建っていた看板は主に建物としての能見堂についてのみ書かれていた。また記述内容も一般の人には難しかったので、この機会にもっと平易な内容で能見堂全体のことが理解できるようなものにするとし、能見堂跡周囲の5カ所（下図A～F）に説明板を設けた。



【図4】説明板設置場所



【写真4】説明板AとD



【写真5】説明板B

ハイキングコースを行く人に金沢八景発祥の地としての能見堂を簡単に説明し（説明板A）、能見堂跡に上がった人にはより詳しく能見堂について説明するようにした（説明板B）。また、金沢の土地の変化を実感してもらうためには、観た人の直感に訴える写真が最適であるとの考えから、明治時代に撮られた写真3枚（C、D、E）を昔と比べられる場所に建てた。



【写真6】説明板C



【写真7】明治時代の能見堂跡の写真



【写真8】上の写真を組み込んで当時撮影された場所に置いた説明板E



【写真9】今回運び入れた石碑についての説明板F

#### 1-4. 道案内板の充実

能見堂跡を通る道は六国峠ハイキングコースとして知られているが、金沢文庫駅からハイキングコース入り口にたどり着くまでの案内板が朽ちたりして、道が判りにくくなっていた。新しい案内板4点を設けると共に、ハイキングコース内の古い看板を必要性和景観の観点から整理した。



【写真10】金沢文庫駅付近のハイキングコース案内板



## 第2章.NKD活動の経緯

### 2-1.能見堂と金沢八景の歴史

能見堂の歴史についての詳細は世の中にある著作物に譲り、ここでは現地に建てた説明板の文章を載せて能見堂の説明とする。

#### 金沢八景と能見堂

昔の金沢は、内海が当地の下まで入り込んでおり、ここ能見堂からの眺めは素晴らしかった(復元地形図参照)。東方には房総の山並みから江戸湾、湾に浮かぶ島々、平潟湾、南方には三浦半島の山々、そして、西方には霊峰・富士までが一望できたのである。

平安時代初期の宮廷絵師・巨勢金岡がここから金沢の景勝を描こうとしたが、内海の干満で時々刻々と変化する絶景に筆が進まず、ついに絵筆を松の根元に投げ捨てたとの言い伝えに因む「筆捨松」の伝説も残っている。

江戸時代の元禄の頃、中国出身の亡命僧・心越禅師がこの地を訪れ、ここからの風景が瀟湘八景に似ていたことから、「小泉夜雨・瀬戸秋月・州崎晴嵐・内川暮雪・平潟落雁・野島夕照・乙艦帰帆・称名晚鐘」と題した金沢八景の漢詩を詠んだ。これが現在、我々が知る金沢八景の起こりといわれている。

この頃の金沢の地は鎌倉・江ノ島と一体となった観光地であった。そして、歌川(安藤)広重をはじめとする多くの絵師や文人墨客により「景勝地・金沢八景」が紹介され、多くの旅人で賑わった。また、このハイキングコースの一部は、当時、保土ヶ谷宿から金沢への主要道(金沢道)であった。

【文書2】説明板Aの文章

#### のうけんどうあと 能見堂跡

この場所には、明治初め頃まで「擲筆山地蔵院」という寺院があり、能見堂と呼ばれていました。「能見堂」の名が出てくる一番古い資料は、室町時代の文明十八年(一四八六)『梅花無盡蔵』で、これに「濃見堂」の名が出てくるので、この時代には能見堂があった事がわかります。古くは、濃見堂、のっけん堂、能化堂などとも呼ばれていました。しかし、始まりがいつかは不明で、江戸時代に書かれた『能見堂縁記』では、平安時代藤原道長が結んだ草庵を始まりとしています。

なぜ能見堂の名が付いたのかと言うと、よく見える(能く見える)からとか、巨勢金岡という絵師がこの景色を描こうとしたが、あまりの美しさと潮の満ち干の変化のため描けず、筆を捨てのけぞったから(のけ堂)とか、地蔵を本尊とするため六道能化の意味から取ったからなど、その他いろいろな説があります。能見堂は、初めは小さな辻堂でした。また、それさえも無い時代がありました。

それを、江戸時代の寛文年間になってこの地を領地とした久世大和守  
 広之が、江戸増上寺の廢院であった地蔵院をここに移して再建し、寺院  
 としての能見堂の歴史が始まります。交通の要所でもあった能見堂は、  
 眺望がすばらしかったので、その景色を中国の「瀟湘八景」に当てはめ  
 て、古くから人々は、「金沢八景」と呼んでいました。その事が、慶長十  
 九年（一六一四）に書かれた『順礼物語』という本に出てきます。徳川  
 家康もこの景色を愛し、江戸城の襖絵にもここからの景色が描かれてい  
 ます。その後、心越禅師が能見堂に来て「金沢八景」の漢詩を詠んだ事  
 で有名になっていきました。

多くの文人墨客たちもこの地を訪れるようになり、それを紀行文や詩、  
 歌などに残し、絵師たちはここからの絵を描きました。また境内に碑な  
 ども建てられ、能見堂からは、案内図などが売り出されました。

能見堂は明治二年（一八六九）に火事になり、その後住職もいなくな  
 ります。その上鉄道や他の道も出きたため、さびれて、訪れる人も次第  
 に少なくなってしまい、そして今は、「金澤八景根元地」の碑などが、当  
 時の面影を留めるだけになってしまいました。

【文書3】説明板Bの文章

## 2-2. 能見堂の所在地

神奈川県横浜市金沢区能見台森185番地4ほか。

京浜急行金沢文庫駅近くから笹下釜利谷道路二本松トンネル上の給水塔付近ま  
 で、六国峠ハイキングコース沿いに距離で2kmほど続く能見堂緑地は、全体が能  
 見台森という町名を与えられており、横浜市が所有し、法律上は公園の位置付け  
 である。

能見堂跡はその一部で金沢文庫駅より徒歩20分ほどの所にあり、1988年に  
 横浜市の地域史跡に指定されている。



【図5】能見堂跡の位置

### 2-3. 公園法上の位置付けと管理

公共の場所なので、個人や団体が勝手に何かを設置するとか草木を伐るようなことは禁止されている。法律上の公園には色々な種類があるが、能見堂跡は都市緑地という種別に分類される。以下は横浜市のホームページから抜粋した近隣の公園の名称とその種別の一覧である。

種別名称	公園名	所在地	面積 (㎡)	管理
運動	長浜公園	長浜106-6	154,182	南部公園緑地事務所
街区	赤井谷公園	釜利谷東三丁目9	816	金沢土木事務所
緩衝緑地	金沢緑地	並木一丁目1	153,127	南部公園緑地事務所
近隣	能見台中央公園	能見台三丁目50-1	28,865	金沢土木事務所
広域	金沢自然公園	釜利谷東五丁目15-1	577,593	南部公園緑地事務所
総合	海の公園	海の公園10	470,155	南部公園緑地事務所
地区	富岡八幡公園	富岡東四丁目12	38,972	金沢土木事務所
都市緑地	能見堂緑地	能見台森185-4	238,054	金沢土木事務所
緑道	釜利谷緑道	釜利谷町2228-4	12,328	金沢土木事務所
歴史	長浜野口記念公園	長浜94-1	11,352	南部公園緑地事務所

公園の種類が異なることによってNKDの要望が制限を受けたりすることを心配したが、結果的に特に影響はなかった。横浜市では一般的に、広い公園は市内3カ所にある公園緑地事務所が管理し、小さな公園は各区の土木事務所が管理する。能見堂跡を含む能見堂緑地は約24haと十分広いが、金沢区土木事務所の管理である。金沢区内には大小合わせて約200の公園がある。

NKDが検討対象とした場所は外から眺めるとひと固まりの緑地だが、公園部分と保存緑地指定部分、それに史跡指定という扱いのある部分の他に民有地も混ざっており、関係者は横浜市の3部署と1社に分かれている。



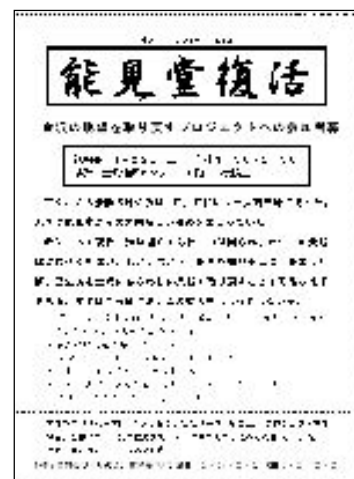
【図6】計画エリアにおける土地の管理状況

## 2-4. 活動全体の流れ

金沢街づくりの会は2004年秋に能見堂跡の荒廃に着目し、その再生の検討を始めた。1月に活動の日程計画表を作り、12月には現地観察会を行って現状の問題と課題を意見として集めた。

2005年1月には元東京大学教授で日本史の研究者であり、能見堂についても長年研究をして来られた山中裕先生に能見堂の歴史についての講義を受け、知識を深めた。

2005年3月にプロジェクトメンバー募集のビラを地区センターなどで配付し、4月23日に釜利谷地区センターで24名の参加を得てプロジェクト発足式を行い、活動を開始した。

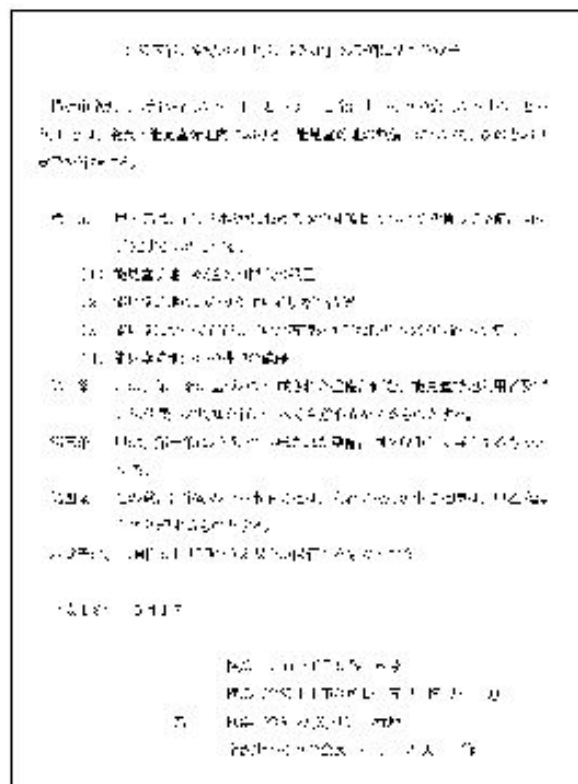


能見堂跡整備の具体的内容は、前年12月の観察会の結果や新たに加わったメンバーの意見をまとめて決めた。能見堂跡は横浜市の土地であることから、NKDはそこを管理する区役所及び土木事務所に対して要望を出す形で進めた。

【文書4】プロジェクトメンバー募集のビラ

近隣町内会への説明などを続けながら区とも話し合いを重ね、2006年5月には区とNKDが協働で作業を進めて行くという覚え書きの調印に漕ぎ着けた。

2007年になってプロジェクトの進捗が思わしくなく、もっと世論の力が必要と考えたことから、民間の情報紙にNKDの活動の様子を掲載し、賛同者を増やす取り組みも行った。



【文書5】協働の覚え書き

2008年3月には、能見堂跡に興味を持つより多くの人に活動を知ってもらうため、能見堂跡で関東学院大学の学生、大学院生と共同で能見台南小学校の児童を対象にしたワークショップを開いた。



【図7】ワークショップのポスター



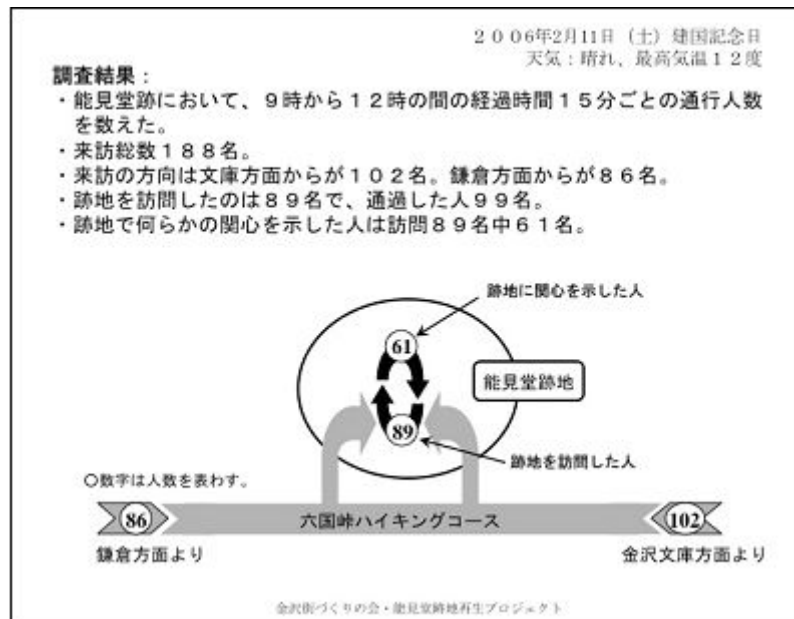
【図8】シンポジウムのポスター

また同じく3月には、金沢地区センターにおいて横浜市歴史博物館の学芸員の方の講演を含むシンポジウムも開催した。このシンポジウムの様子はケーブルテレビでも地域のニュースとして報道された。

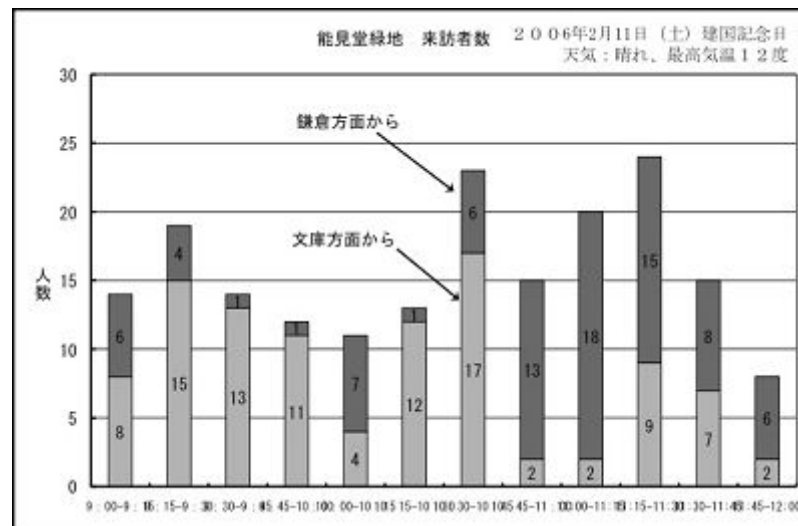


【写真11】シンポジウムの様子

2005年から2009年にかけて、能見堂緑地の利用者数や能見堂跡への関心度を測るために、5回の通行量調査を行った。整備前後の調査結果を比較することでNKDの有効性を検証するためである。調査結果の一例を次ページに載せておく。



【図9】 通行量調査結果



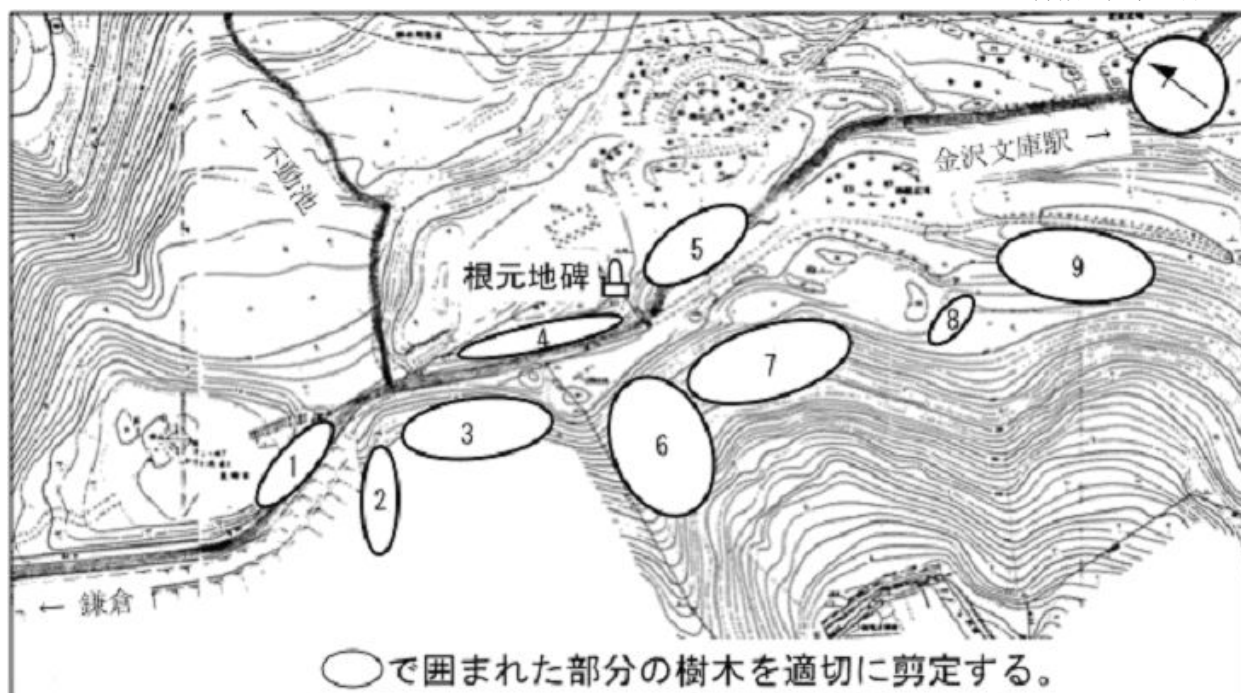
【図10】 時間毎の通行者数

多くの人の意見と協力を得て、2008年後半から金沢土木事務所との実務の打合せが動き出し、2009年の年明けから工事が開始され、年末にはほぼ現在の跡地の姿ができあがった。

## 2-5. 要望項目ごとの推進経緯

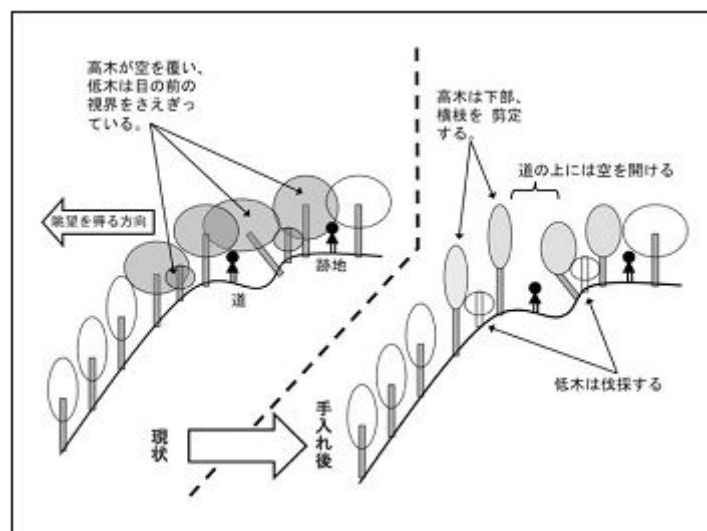
### 2-5-1. 樹木の剪定

ここ数十年の間に発行された書物や記事などには、能見堂跡に関して一様に「木が生い茂ってかつての眺望は得られない」という意味のことが書かれている。1980年代に公園として整備した際に植えた木などが手入れをされないままの林を形成し、現在も見晴らしは全く利かない。すばらしい眺望こそがかつての名所としての能見堂の要と考える私たちは、伸び過ぎた木を剪定して見晴らしを良くすることを要望の第一番目にあげた。NKDの要望は、能見堂跡の土地から、夏島、野島、瀬戸橋を経て釜利谷の手子神社までを一望できるように、下図で示す範囲の樹木を剪定することである。



○で囲まれた部分の樹木を適切に剪定する。

【図11】剪定計画案



【図12】剪定方法の概念図

2005年5月に、私たちNKDは区役所に、木を剪定して見晴らしを良くして欲しいのだがどうすればいいかと相談を持ち掛けた。窓口である金沢区役所区政推進課企画調整係からは、横浜市の「まち普請事業」に応募せよとアドバイスを受けた。この事業は市民が企画した内容を市が吟味し、提案内容が良ければ採用して協働で推進するというもの。能見堂跡周辺の住民の賛意が必要ということから、能見堂緑地に隣接する3つの連合町内会長とその傘下の11の町内会の会長、及び1公園愛護会会長に手紙を送ったり面会をして計画を説明し、同意を得てこれに応募したが、準備不足のためか、7月の選考会ではあえなく落選してしまった。

2005年9月に、区政推進課と共に公園を直接管理する土木事務所に改めて木を伐れないかと相談するが、予算がないので無理と回答された。予算上の問題ならばNKDが森林整備のボランティア団体と組んで自分たちで剪定する可能性を尋ねたところ、それならば実行は可能という返事であった。但し、樹木剪定の可

否については住民の合意が取れているかどうかを見極めた上で区が判断するとの条件である。つまり、区の判断の下にボランティア団体が活動するならば眺望の確保も可能ということであった。

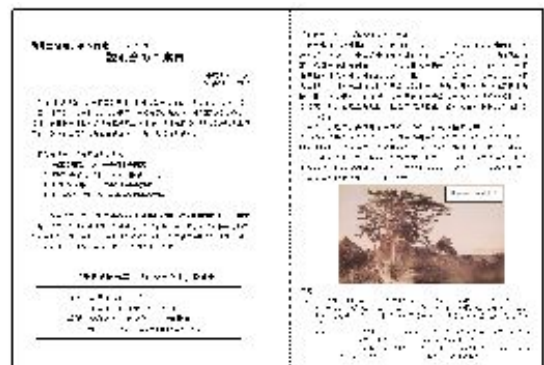
翌10月にNKDの提案への理解を深めてもらうために、区役所と土木事務所の6名に能見堂跡までの道を歴史の説明付きで一緒に歩いてもらった。

樹木の剪定については「地域の合意がとれているかどうかを見極めて区が判断する」という結論となり、その合意を得るための活動は区ではなくNKDが周辺住民に対して行うことになった。

どのようにして周辺住民の同意を得れば良いのか、区を始め能見台地区、金沢中部地区、釜利谷地区の各連合町内会長に相談した。地区により町内会長の集まりで報告して了承をとれば良いという所もあれば、各町内会にまで話を降ろして賛否を聞く必要がある所もあった。

2006年2月、釜利谷地区の町内会長の集まりの際に時間を取っていただき、出かけて行って説明をさせてもらった。3月初めの時点で、3つの連合町内会と傘下の町内会長レベルでは企画に対しての賛同を得ることができた。

更に3月中旬には、プロジェクト説明会開催の回覧用紙を釜利谷地区の5町内会で回覧するために配布し（各戸へ説明会開催の案内を行ったということである）、4月に釜利谷地区センターで説明会を行った。



【文書6】説明会開催の回覧用紙（A3サイズ）

その説明会の会場でベランダが覗かれるのではないかと、風が強くなって洗濯物が飛ばされるのではないかとという心配から反対を唱える参加者もいた。この不安に対しては、風向きや地形の断面図などを調査の上、山を皆伐する訳ではないこと、眺望を確保する主たる方向が異なること、その方の家とは距離が200メートル離れ、高低差も30メートルあること、などから心配されるようなことは考えられない旨を後に文書で説明した。

近隣町内会以外の人への説明も必要と考えられたので、2006年6月には能見堂跡に説明会開催の看板を立てて企画の告知をした。その看板を見て地区センターに集まった人に直接意見を聞くことを行った。ここでは緑が減ることや訪問者が増えたときのゴミの問題を心配する意見が出た。



【写真12】説明会開催告知の立て札

一方、前記したように今回の樹木剪定の対象地には関係先が4つあったので、



この時期に区以外の3カ所との調整を図った。

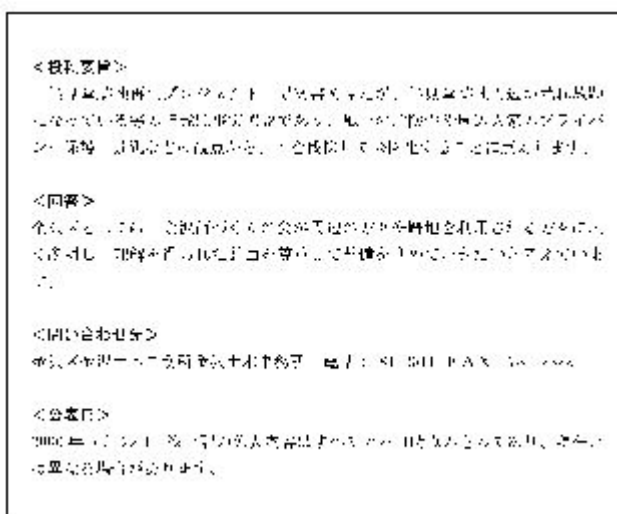
横浜市の文化財課には樹木剪定の適否への関与をするかどうかを確認した。昔の建物があつた土地に関しては地面を掘るなどのことをされては困るが、樹木については公園管理者の見解に従えばよいとのことであつた。

南部公園緑地事務所は自ら剪定するつもりはないが、ボランティア団体が行う場合には区が剪定を了解していることと、作業の安全面から地形などがボランティア団体に任せられる場所かどうか、その団体の技術的な熟練度を見極めた上で判断するということであつた。

民有地に関しては、そこを所有する建設会社と電話とEメールでのやり取りをし、要望を伝えてから3日後には樹木剪定についての上承を得た。これは2006年2月のことであるが、NKDとしては眺望の回復は市の所有地と同時に行いたい意図があつたので、作業は1年以上先になる可能性のあることを了解してもらつた。

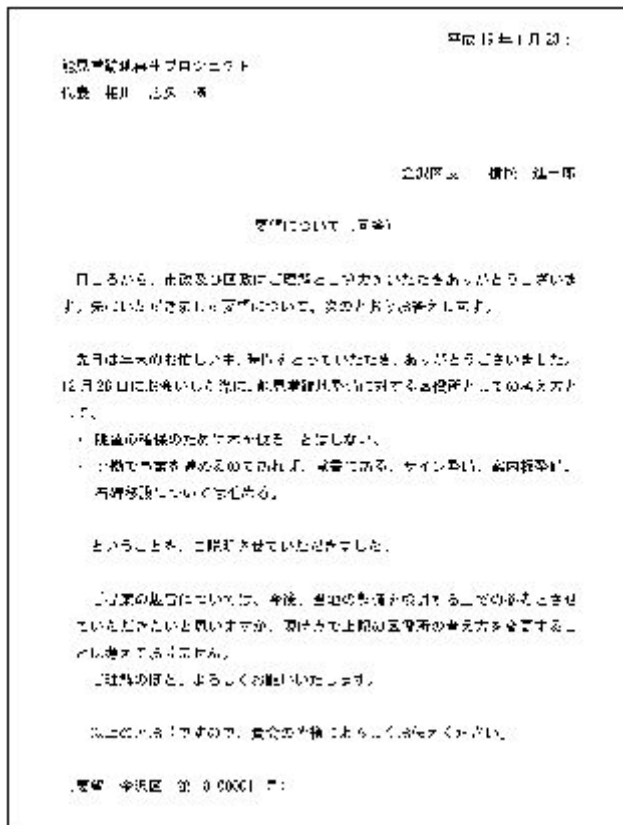
ボランティア団体による活動の可能性を求めて「かなざわ森沢山（もりたくさん）の会」に話を持ち掛けたところ、趣旨に賛同を得、継続的な山の手入れをしてもらえることが確認できた。しかし、その後土木事務所が環境創造局と相談する中で法的な問題もあるということになり、区は公園内での剪定をボランティア団体に実施させられないので作業は土木事務所で行うという新たな見解を示した。

このようにしてなんとか各方面の合意が取れつつあつたが、一方で反対する意見も出てきた。木の枝一本伐ることまかりならぬというような意見の持ち主が区役所に電話をしたり、10名くらいの反対署名が届けられたり、横浜市のホームページに意見の投稿があつたりしたことから、区役所は樹木の剪定に難色を示すようになってしまった。



【文書7】ホームページへの投稿

反対の意見を持つ人達への説明の場を設けるように区役所に依頼したが、先方に話し合う意志がないので無理とのこと。NKDとしては相手がどういう考えを持つ人達なのか、どういう理由で反対しているのかを知ることでもできず、反対意見を持つ人達と議論する手段を持てなかつた。区役所は、反対者がいる以上は剪定はしないという見解であつた。



2006年11月に横松区長と面会して再検討を依頼した。しかし、2007年1月になって区長から、眺望のための剪定はしないという内容の回答書を受け取った。いろいろな人へ説明する過程でほとんど全ての人が計画の良さを認めているにも関わらず、我々には知らされない理由によって剪定はできない状況となった。

### 【文書8】区長からの回答

その後2年が経過し、区役所や土木事務所の人事異動もあり、要望に対する受け止め方の変化が生まれた。剪定を希望する樹木を具体的に示すように提案され、2008年10月にはかなざわ森沢山の会の協力を得て現地の樹木に目印を付ける作業を行った。その結果、2009年2月に一部の倒れそうな木や落ちかかっている枝などについては剪定が行われた。2010年3月末現在では、能見堂緑地全体の整備計画を作る中で、その一部である跡地周辺の樹木の管理も行っていくという土木事務所の見解をもって終結になっている。以上が、NKDが大きな目標としてきた「樹木の剪定」に関する経緯である。



【写真13】剪定して欲しい木に印を付ける

### 2-5-2. 石碑の移動

江戸時代に能見堂にあった石碑の一部は、明治時代に能見堂が廃れた後、あちこちに運ばれていた。それらの石碑の一つである江耆楼美山句碑は野島にあったが、2002年にその土地が売りに出された際に句碑も処分されそうになった。この時は金沢文化協会が横浜市に働きかけ、2003年に現地に運ばれ、これまで7年間には能見堂跡に上がる階段の下に設置されていた。



【写真14】階段下にあった美山句碑

他に富岡東の鹿島家に3基（一方句碑、武蔵国金澤碑、山室宗珉居士墓碑）が保存されていることが知られており、今回NKDでは2008年2月に仲介者を経てプロジェクトの趣旨を説明させていただいたところ、持ち主の方には移設することを快く受け入れていただくことができた。

区役所、土木事務所、文化財課とNKDのメンバーは数度に渡って鹿島家を訪れ、石碑自体の調査やその移動や設置に伴って必要になる作業の検討を重ね、受け入れ体制を整えた。

2009年2月にクレーンなどを使って富岡東から能見堂跡に運ばれた石碑類は、美山の句碑と共に今の場所に設置された。



【写真15】搬出作業



【写真16】設置作業

個人の方から石碑を提供していただく以上は、これまでの持ち主に対して末永く今の姿のまま（傷つけられたり持ち去られたりしない状態）で保存することを保証すべきではないかと考えたが、石碑と呼ばれるようなものは文化財といえども屋外にポツンと置いてあって囲いさえないのが普通のようなものである。文化財課に聞いてみたところ、特段の対策はとっていないとのことであったのでそれに倣った。

石碑を提供していただく過程で区役所の手続きで驚かされたのは、これまでの所有者に寄贈をお願いするのではなく、逆に寄贈申請書を書いて提出してもらうということであった。形式的に見ると、寄付したいというなら区長が受け取ってやろうとでもいうようなものであり、石碑を運び去った後には感謝状はおろか受領証さえ発行されないという仕組みなのであった。

富岡にあった石碑を移動するにあたって、課題の一つは石碑が富岡の鹿島家にあるということが多くの出版物に書かれて知られていることであった。それら出版物に書かれた情報を訂正することはできない。従ってこれから先、歴史を研究する人達が誤って鹿島家を訪れてしまわないように何らかの対応をする必要があると考えた。

石碑が鹿島家にあることが書かれている主な出版物は以下の12点である。

- 平田恒吉『金澤と六浦荘時代』熊野屋商店 大正3年（1914）
- 関靖『かねさハ物語』横浜土地新報社 昭和13年（1938）
- 関靖『金沢文庫の研究』講談社 昭和26年（1951）
- ④『横浜市文化財調査報告書 第七輯 金沢区金石誌』横浜市教育委員会 昭和45年（1970）

- 『横浜歴史散歩 杉田・金沢をさぐる』 横浜市郷土研究会  
 横浜市教育委員会 横浜市図書館 昭和48年（1973）  
 前田元重「武州金沢能見堂とその出版物について」  
 （『金沢文庫研究』第二二七・二二八号 昭和50年（1975））
- ⑦『横浜市釜利谷開発地区文化財研究調査報告書 歴史・民俗編』  
 横浜市文化財研究調査会 昭和51年（1976）
- ⑧『武州金澤文学資料』 横浜市金沢区役所 昭和53年（1978）  
 杉山高藏『金沢今昔』昭和60年（1985）  
 石井光太郎編『碑はつぶやく—横浜の文学碑—』平成2年（1990）
- ⑩『金沢区の文化財』金沢区役所 平成3年（1991）  
 中島邦秋『横浜の句碑』平成19年（2007）

横浜市の文化財課や歴史博物館、県立金沢文庫の方々に相談したところ、石碑類が能見堂跡に戻ったことをできるだけ多くの媒体で案内することをアドバイスされた。そしてNKDとしては活動報告書のようなものを発行することで図書館などに記録を残すことにした。将来図書館やインターネットなどで能見堂跡の石碑に関して調べものをする人達が、この石碑が移動した事実巡りに巡り会えるようにするためである。

- ・ タウンニュース紙 2009年11月26日号に掲載
- ・ 横浜郷土史団体連絡協議会に加盟する金沢区内の7団体に対し、2009年2月26日付けで石碑の移動を手紙にて案内。
- ・ 本報告書 2010年11月 プロジェクト関係者、協力者、図書館などに送付。

### 2-5-3. 説明板の設置

これまでの説明板に代わるものを作るにあたり、行政に任せきりにするとまた難解な文章で書かれてしまう可能性があるので、NKDで文章を作成しようと考えた。小学生でも判るような文章にしたいと考えていたところ、2006年7月に能見台南小学校より総合学習の授業で能見堂のことを研究しているので話を聞きたいと連絡があった。この機を逃さず、説明板の文章については小学校との連携で作ることにした。

2006年11月にNKDで作った原案を能見台南小学校の6年1組の生徒に見てもらい、指摘をもらってより判り易くした文章にした上で2007年6月に横浜市の文化財課にも内容をチェックしてもらった。この過程でNKDのメンバーも何度か小学校の授業に参加させてもらった。



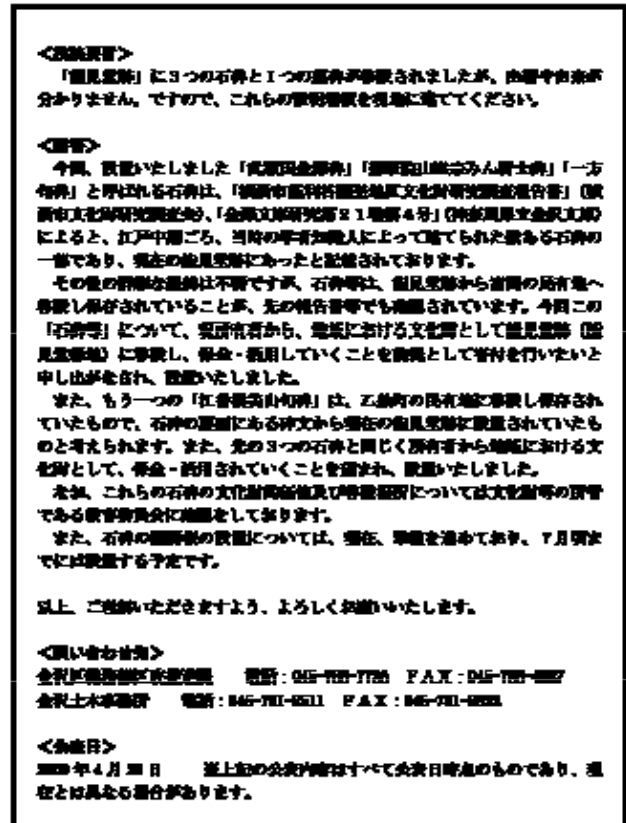
【写真 17】 能見台南小学校との連携

説明板と道案内板の作成はNKDの当初からの要望であり、協働の覚え書きを交わした2006年の段階で区役所も対応を了解済みの項目であった。ところが2008年11月になって、具体的な説明板の仕様や建設日程を調整しようとする会議の席上で、区役所から説明板の設置などは約束していないという見解が示された。なぜこのようなことを言い始めたのかは不明だが、1カ月後にはこの状況は解消され、説明板と道案内板を区の費用で設置するということが改めて確認された。

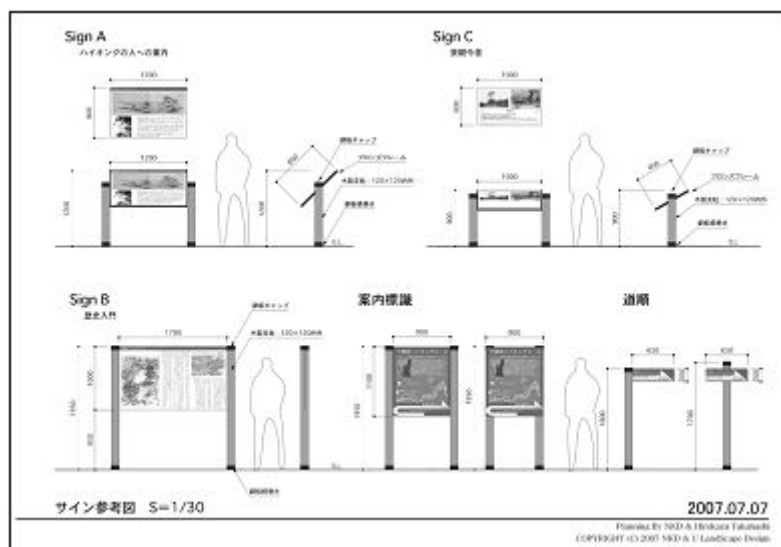
2009年の春になって、区役所は今回のプロジェクトで能見堂跡に運び入れた石碑4基についての説明板を作ることを決めた。

石碑に何が書いてあるのかが判るように説明板を作った方が良いという議論はそれまでにNKD内でもあった。だが、全てを現地で説明する必要はない（興味があるなら自分で調べればよい）という意見も町内会の集まりやシンポジウムなどで出されており、NKDとしてはその種の勉強は図書館でもしてもらうことにして、現地はそのきっかけ作りの場と考え、看板の林立を避けるためにも今回は作らないことにしていた。ところが区役所は、石碑を置くならその説明も欲しいという一通の投書（横浜市のホームページへの投稿）に反応して、NKDに相談や連絡もないままに設置することを回答していた。

この事態を受けて、NKDでは新たな説明板の作成も他の説明板と同様にNKDにやらせてもらえるように調整した。説明板と案内板のデザインについてもNKDで提案をしていたが、予算と納期の制約から一般市販品を使うことにした。



【文書9】ホームページの回答



【図13】NKD提案の説明板と案内板デザイン

説明板には昔の絵や写真が使われているが、当初これらは全て博物館などに保存されている物を使う予定であった。区役所に入手してもらったところ、一部NKDの指定とは異なるものが説明板作成業者に提供されてしまい、校正の段階であわてることになった。区役所に改めて正しい物入手してもらえるように依頼したところ、供給済みの物で我慢するようと言われてしまった。描かれた年代が違ったりして譲り様がない物であるため、写真一点についてはメンバーが供給元と交渉して正規の物と取り替えてもらい、2点の絵についてはメンバーが所有する原本から新たに写しを撮り直して使用した。

#### 補足：旧説明板による礎石の説明

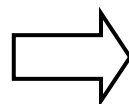
現在能見堂跡に並んでいる建物の基礎を示す石は、1982年に横浜市教育委員会が行った発掘調査の研究成果を踏まえて並べられたものである。1987年に設置され、今回の整備で撤去した旧説明板の写真とそこに載っていた文章の一部を参考に記載しておく。

「今度の整備に当っては、『江戸名所図会』と『相中留恩記客』記載の絵図を参考にして建物の柱の位置を復原しました。復原の考え方は、石段中央を基準にとり、客殿を石段に正対させ、客殿中央を基準線上に置き、さらに、客殿の東に地蔵堂（本堂）、西に庫裡を配しました。なお、地蔵堂の規模は、『新編武蔵風土記稿』に二間半四方とあり、この記事を採用しています。また、庫裡はふたつの図によって規模が異なりますが、ここでは『江戸名所図会』に従っています。」  
（昭和62年3月 横浜市教育委員会）



【写真18】旧説明板

指定史跡の標柱がだいぶ痛んでいたが、これは文化財課の管理だったので、他の作業に先行して2008年3月に修理をした。



【写真19】指定史跡の標柱／修理前と後

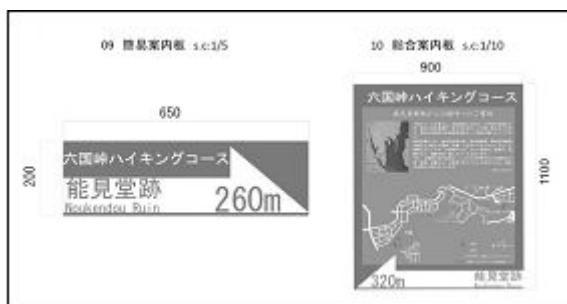
### 2-5-4.案内板の設置

六国峠ハイキングコースに沿って歩いてみると、看板類にはいくつかの問題があった。

一つは案内板が金沢文庫駅側にしかないことであった。そのためバス停の「能見堂緑地前」で降りても能見堂跡やハイキングコースへ行くことは難しい。金沢文庫駅以外の方向から来た人のためにも案内板を作りたいと考え、新しい案内板の色、形や記載内容、設置場所12カ所をNKDで提示した。



【図14】案内板設置提案



【図15】案内板デザイン提案



【写真20】案内板の見え方の検討

NKDの企画と並行して、2007年度の金沢区の施策の中に「観光戦略プラン」というものが存在していた。そのプランの中には「わかりやすい案内サインの設置」という項目があったので、もしそのプランで区内の案内標識のデザインなどが統一されるなら、NKDもそれに従うつもりでいた。町中に色々なデザインの標識が林立することは好ましくないと考えたからである。但し、設置場所やデザインに関する要望はしたいと考えていたところ、提案をするならば観光戦略プランの結論を待つのではなく早目の方が良いというアドバイスを区役所からもらったため、上記の設置計画案を2007年7月に観光戦略プランの推進部門である地域振興課に提出した。しかし、2008年4月に出された結果では、色々な方面に案内板を建てるという提案は採用されなかった。今回は金沢文庫駅周辺だけの整備となり、その地域でもNKDの要望した5カ所の内4カ所だけの設置となった。



【写真21】新たに設置された案内板

金沢文庫駅周辺での要望の中で計画に反映されなかったのは、谷津町内会の掲示板の所である。そこには江戸時代の物と考えられる石造りの道標があり、掲示板の下には数十年前に京浜急行が作った六国峠ハイキングコースの錆びた案内板が長年立てかけてあった。道が二股に分かれる所であり、ここにはよく見える標識の設置が必要であると考えていた。



【写真 22】 掲示板下に置いてある錆びた標識

NKD では石の道標の説明とハイキングコースの案内を新たに作る1枚の看板で共用することを提案したが、区役所は朽ちていてもこの案内板があるから新しいものは不要であると主張した。NKD の数度の要望により、区役所は案内板の設置に同意し、そこにあった看板の元々の設置者である京浜急行に依頼して製作した。そこには石の道標についての説明はないままであった。NKD の要望に沿って1枚の看板にすれば一度の発注で相対的に安くできたと思われるが、結果的に2枚の看板を別々に作らざるを得ないことになり、石の道標についての説明板は土木事務所に再度お願いをして作成してもらった。



【写真 23】 掲示板下に2色の看板ができた

看板類のもう一つの問題は、ハイキングコースに入ってから能見堂跡付近に至る1km程の間に山火事の注意や植物の説明など、新旧取り混ぜ28枚もの看板類が立って静かな山道の雰囲気害していたことである。



【写真 24】 立ち並ぶ種々の看板



そこにある必然性が判らないような看板も目に付いたことから、NKD で一枚ずつ吟味してその整理を提案した。

【図 16】 看板等配置図



設置した部署はいずれも旧緑政局や消防署など市の組織だったので、設置者との交渉は土木事務所に依頼した。対策を要望した看板類14点のうち7点が撤去されるなど、山道としての雰囲気は多少良くなった。

能見堂跡地再生のための看板類の整理提案

改訂③ 2008.12.23  
初版作成 2007.7.13

能見堂跡地へのハイキングコース上にある看板類					看板類の整理後の姿				
番号	表示内容	形式	管理者	備考	番号	表示内容	対応	理由	
1	山火事注意	看板1	金沢消防署	啓発	1	山火事注意	維持	コース入り口での注意喚起	
1.5	バイク進入禁止	看板1	金沢土木事務所	禁止行為の告知	1.5	バイク進入禁止	維持	コース入り口での注意喚起	
2	金沢自然公園	ポール	南郡公園事務所	行き先案内	2	金沢自然公園	撤去	コース案内で十分	
3	犬を連れてくる方へ	看板1	南郡公園緑地事務所	啓発	3	犬を連れてくる方へ	撤去	山道であり、広場ではない	
4	火の用心	看板2	金沢消防署	啓発	4	火の用心	撤去	1と重複	
5	落石注意	看板2	金沢土木事務所	崖の工事必要?	5	落石注意	維持	工事計画が必要	
6	落石注意	看板2	金沢土木事務所	5と逆方向の歩行者への案内	6	落石注意(逆方向)	統合	足元の注意であれば5と統合	
7	緑地保存地区 横浜市	ポール	南郡公園事務所	行政の関与を示す	7	緑地保存地区	維持	設置基準確認	
8	シダのいろいろ(森の不思議)	看板2	緑政局	教育目的	8	シダのいろいろ	撤去	シダが見られる場所ではない	
9	能見堂緑地	ポール	南郡公園事務所	行政の関与を示す	9	能見堂緑地	維持	設置基準確認	
10	能見堂緑地コース案内	看板2	緑政局	公園共通案内板	10	能見堂緑地コース案内	維持	設置基準確認	
11	山火事注意	看板1	金沢消防署	啓発	11	山火事注意	維持	設置基準確認	
12	能見堂緑地コース案内	看板2	南郡公園事務所	公園共通案内板	14	能見堂緑地コース案内	維持	設置基準確認	
13	山火事注意	看板1	金沢消防署	啓発	13	山火事注意	撤去	1.1と重複	
14	犬を連れてくる方へ	看板1	南郡公園緑地事務所	1.3と同じポールに助付け	14	犬を連れてくる方へ	撤去	山道であり、広場ではない	
15	オリエンテーリング<G>	看板1	オリエンテーリング協会	競技用施設	15	オリエンテーリング<G>	維持	250mほど文庫寄りの10、11の間	
16	森の不思議絵本	看板2	緑政局	教育目的	16	森の不思議絵本	撤去	看板で読める内容ではない	
17	山火事注意	看板1	金沢消防署	啓発	17	山火事注意	撤去	特別な場所に相応しくない	
18	能見堂緑地コース案内	看板2	南郡公園事務所	公園共通案内板	18	能見堂緑地コース案内	維持	設置基準確認	
19	六国峠ハイキングコース①	看板1	南郡公園事務所	古い道標	19	六国峠ハイキングコース	維持	古いが判りやすい	
20	食う、食われる	看板2	緑政局	教育目的	20	食う、食われる	撤去	看板で読める内容ではない	
21	山火事注意	看板1	金沢消防署	啓発	21	山火事注意	維持	設置基準確認	
22	自然を保護しています	看板1	緑政局	行政の関与を示す	22	自然を保護しています	撤去	意味不明	
23	車両進入禁止	看板1	緑政局	禁止行為の告知	23	車両進入禁止	維持	コース入り口での注意喚起	
24	自然を保護しています	看板1	緑政局	行政の関与を示す	24	自然を保護しています	撤去	意味不明	
25	能見堂緑地	ポール	南郡公園事務所	行政の関与を示す	25	能見堂緑地	維持	設置基準確認	
26	六国峠ハイキングコース	看板1	南郡公園事務所	古い道標(天國/文庫)	26	六国峠ハイキングコース	維持	古いが判りやすい	
27	車両進入禁止	看板1	緑政局	禁止行為の告知	27	車両進入禁止	維持		

・形式の看板1と2はそれぞれ定本数を示す。  
 ・看板の数は、金沢消防署：6、南郡公園事務所：8、金沢土木事務所：2、緑政局：5、県：1。  
 ・2と3の間に「自然山林保有地区」の旗ったポールあり。

以下は三叉路より先の看板。

作注：金沢市つくりの会、能見堂跡地再生プロジェクト

【図17】看板整理要望の表

整理を要望した看板類の中には、オリエンテーリングの競技に使われるポストと呼ばれる目印の標識（表中の15番）もあった。これまでの場所は能見堂跡の根元地の石碑の前であり、江戸時代の名所の正面玄関前に、アルファベットが書かれた目立つ看板が、立っている状態だったわけである。

設置場所を変えることができないかどうか、管理する神奈川県教育委員会を通じて神奈川県オリエンテーリング協会に連絡を取り、合同の現地確認会を行うなどして合意を得、ポストは2009年1月に200m程離れた場所に移設された。ここを通るオリエンテーリングのコースは公式コースであり、そのポストの位置は金沢文庫駅西口前の地図や日本オリエンテーリング協会のホームページなどでも案内されていたことから、それらへの対応をオリエンテーリング協会に依頼した。



【写真25】移動前のポスト

## おわりに

NKD が提案した4項目のうち、眺望の回復を除く3項目は、通常の道路や公園整備の延長にある作業と考えられるため、行政にも比較的受け入れ易かったようであった。しかしながら眺望の回復というのは、通常業務（例えば安全な歩行の確保など）とは異なると捉えられたために、樹木の剪定についてはNKDと行政の間で多くの時間を費やした。

能見堂跡は雑木林の姿をした公園の一部であり、その管理には安全の視点の他に、どのような景観を持つ場所として管理するべきかという視点も必要不可欠である。公園の存在意義に合致するように対処して行くことが本来の管理業務ではないだろうか。能見堂跡が、大切にすべき八景発祥の地であるならば、眺望が得られる場所として整備するという方針を持って管理する事こそがふさわしいと考える。

NKDとは「金沢街づくりの会・能見堂跡地再生プロジェクト」の略称であるが、今回能見堂跡に建てた説明板には、金沢区役所・能見堂跡地整備プロジェクトと記してある。これは公園の管理者である金沢区が民間団体と協働で現地の整備をしたことを示すものであるが、一方でこの報告書は「跡地再生プロジェクト」が作成している。

対外的には、「能見堂跡地整備プロジェクトという名前にして欲しい」という行政からの要望により、2006年5月以降、町内会への説明資料などにはその名前を使ってきた。これは行政とNKDの共同体を意味する。

しかしながら、その後も要望する側とされる側という関係を引きずらざるを得なかったため、私たちはその後も自分たちが活動する時には「金沢街づくりの会・能見堂跡地再生プロジェクト」(NKD)という名称を使ってきた。

従ってこの報告書も、要望する側であった民間団体が作成したものということである。

いずれにせよ、行政を始めとする多くの関係者の協力によって、2010年の能見堂跡は現在のような形に整備をすることができた。

当プロジェクトに関心を示し、協力をしてくださった方々にはこの場を借りてお礼を申し上げますと共に、いずれ能見堂跡の眺望が回復されて多くの人が集う場となり、やがて新たな能見堂や金沢の研究の芽が出ることを期待するものである。

## 付録-1 【活動年表】

2004.11.8 街づくりの会として  
プロジェクト開始  
2004.12.11 現地観察会。

\*\*\*\*\*

2005.1.30 山中先生による「能  
見堂の歴史」講義。  
2005.3.10 チラシによりプロジ  
ェクトメンバー募集  
2005.4.23 釜利谷地区センタ  
ーにてプロジェクト発足会。  
2005.5.15 プロジェクトの位置  
付けと活動方針についての議論。  
2005.5.17 法務局にて地権者調  
査。  
2005.5.20 区政推進課企画調整  
係と相談。  
2005.6.3 土木事務所下水道公園  
課と相談。  
2005.6.4 プロジェクト定例会に  
て「まち普請」に応募を決める。  
2005.6.13 「まち普請」に企画書  
を提出。  
2005.6.18 プロジェクト定例会。  
2005.6.25 プロジェクト定例会。  
2005.6.30～7.7 まち普請に  
応募したため、3連合町内会長、11町  
内会長、1公園愛護会への企画説明を行  
う。  
2005.7.10 まち普請コンテスト  
に落選。  
2005.7.28 区政推進と今後の進  
め方打合せ。  
2005.8.20 プロジェクト定例会。  
2005.9.16 土木事務所、区政推  
進と打合せ。  
2005.9.24 プロジェクト定例会。  
2005.10.7 土木事務所、区政推  
進と合同で現地確認会。  
2005.10.22 プロジェクト定例  
会。  
2005.10.28 町内会長等へプロ  
ジェクト進捗状況のレター発送。  
2005.11.13 プロジェクト定例  
会。  
2005.11.23 現地通行量調査実  
施。  
2005.12.17 プロジェクト定例  
会。  
2005.12.21 区政推進に相談。

\*\*\*\*\*

2006.1.17 土木事務所と相談。  
地域振興課とも相談。  
2006.1.21 プロジェクト定例会。  
2006.1.31 環境創造局にて野毛  
山の教訓を聞く。  
2006.2.3 南部公園緑地事務所  
にて剪定の許可条件を聞く。  
2006.2.4 各連合町内会長に住  
民への案内方法について電話で意見を聞く。  
2006.2.11 現地通行量調査実施。  
2006.2.17 各連合町内会長等に

企画書配布。  
2006.2.18 プロジェクト定例会。  
2006.2.23 大樹建設工業より樹  
木伐採の許可メール受領。  
2006.2.24 釜利谷地区連合町内  
会長（16名）に企画プレゼン。  
2006.2.27 区政推進、土木事  
務所に企画プレゼン。  
2006.2.25～3.1 各連合町内  
会長等に企画書への町会長の反応を聞く。  
2006.3.12 プロジェクト定例会。  
2006.3.13 区政推進、土木事  
務所と今後のすすめ打合せ。  
2006.3.17 釜利谷の5町内会に  
プロジェクト説明会開催の回覧用原紙を  
配布。  
2006.3.30 行政側の今後の関  
わりについて、土木事務所、区政推進課か  
ら「今後協働で進める」統一見解をもら  
う。  
2006.4.1 プロジェクト定例会。  
2006.4.5 環境創造局水緑課、区  
政推進課、土木事務所と打合せ。  
2006.4.16 回覧により告知した  
住民説明会開催。  
2006.4.20 区政推進、土木事  
務所と打合せ。覚書の件。  
2006.4.23 プロジェクト定例会。  
2006.4.29 現地通行量調査実施。  
2006.5.8 教育委員会生涯学習部  
文化財課にコンタクト。  
2006.5.10 文化財課に企画説明。  
2006.5.13 プロジェクト定例会。  
2006.5.15 土木事務所にて説明  
会案内看板の材料受取り。公園占有許可  
と支払い免除申請提出。  
2006.5.17 土木事務所と覚書調  
印。  
2006.5.17 現地に説明会案内看  
板を立てる。  
2006.6.4 現地に立てた看板によ  
り告知した住民説明会開催。  
2006.6.24 プロジェクト定例会。  
2006.7.4 市役所都市整備局地域  
支援課経由で能見台南小学校より活動内  
容を知りたい旨の連絡あり。  
2006.7.8 能見台南小学校の渡邊  
教諭に会って活動内容を紹介。  
2006.7.16 プロジェクト定例会。  
2006.7.24 文化財課今井氏に文  
化財課の管理範囲を確認する。  
2006.7.28 区政推進、土木事  
務所と今後の進めを打合せ。住民より樹木  
伐採  
に反対意見が出ている件。  
2006.8.5 プロジェクト定例会。  
2006.8.23 区政推進、土木事  
務所に電話にて反対者との会合を催促。  
2006.8.27 プロジェクト定例会。  
2006.9.1 区政推進、土木事  
務所と進捗確認。  
2006.9.15 区政推進、土木事  
務所の反対者とのやりとりを確認。  
2006.9.16 プロジェクト定例会。  
2006.9.23 現地通行量調査実施。

2006.10.8 プロジェクト定例会。  
2006.10.12 区政推進、土木事  
務所との打合せ。  
2006.10.22 能見台南小学校に  
て児童2名にNKD活動報告。  
2006.10.28 プロジェクト定例  
会。  
2006.11.14 能見台南小学校6  
年1組にて総合学習の時間にNKD活動報  
告。  
2006.11.14 区政推進、土木事  
務所との10/12を受けた打合せ。  
2006.11.19 プロジェクト定例  
会。  
2006.11.21 能見台南小学校と  
街歩きを行う。  
2006.11.28 横松区長と会談。  
2006.12.5 南部公園緑地事務所  
にて特別保全緑地の整備の可能性を聞く。  
2006.12.12 12/5の件を環境  
創造局用地調整課に聞く。  
2006.12.20 12/5の件につ  
いて環境創造局環境活動事業課の見解を聞  
く。  
2006.12.28 横松区長、区政推  
進、土木事務所との打合せ。

\*\*\*\*\*

2007.1.9 区長との打合せを踏ま  
え、最終回答を催促。  
2007.1.14 プロジェクト定例会。  
2007.1.23 区長より樹木伐採な  
どに関する回答書受領。  
2007.1.25 市会議員小幡氏にコ  
ンタクト。  
2007.2.3 プロジェクト定例会。  
出席予定の小幡議員は前夜キャンセル。  
2007.2.13 土木事務所との打  
合せ。  
2007.2.20 文化財課との打合せ。  
何がどこまでできそうか感触を得る。  
2007.2.25 プロジェクト定例会。  
2007.2.27 能見台南小学校での  
授業に参加。  
2007.3.15 連合町内会長宛に現  
状報告の手紙発送。  
2007.3.25 プロジェクト定例会。  
2007.4.22 プロジェクト定例会。  
2007.4.24 地域振興課にて観光  
戦略プランのまとめを見せてもらう。  
2007.5.13 プロジェクト定例会。  
2007.6.10 プロジェクト定例会。  
2007.6.26 区政推進、土木事  
務所にプロジェクトによる現状まとめを提  
出。  
2007.6.28 文化財課今井氏にプ  
ロジェクト作成の説明板文章内容につ  
いてチェックを受ける。  
2007.7.8 プロジェクト定例会。  
2007.7.13 案内板と説明板の建  
設位置の現地調査をし、計画を確定する。  
2007.8.9 オリエンテーリングの  
ポスト移動の件で神奈川県教育委員会に  
要望を伝える。

2007.8.12 プロジェクト定例会。  
2007.9.9 プロジェクト定例会。  
2007.10.14 プロジェクト定例会。  
2007.11.11 プロジェクト定例会。  
2007.12.9 プロジェクト定例会。

\*\*\*\*\*

2008.1.13 プロジェクト定例会。  
2008.1.22 区政推進課、土木事務所それぞれと情報交換。  
2008.2.10 プロジェクト定例会。  
2008.2.29 富岡の鹿島家を訪問。計画に賛意を示される。  
2008.3.1 KGU が能見台南小学校を対象にワークショップを開催。  
2008.3.16 プロジェクト定例会。  
2008.3.21 土木事務所と打ち合わせ。  
2008.3.22 シンポジウム開催。  
2008.3.26 区政推進と打ち合わせ。  
2008.4.13 プロジェクト定例会。  
2008.4.15 区政推進と共に文化財課を訪問。  
2008.4.17 鹿島氏に具体的な意向確認を行う。  
2008.5.11 プロジェクト定例会。  
2008.5.13 おぼた議員、文化協会の人達と共に土木事務所の新責任者と会談。  
2008.6.8 プロジェクト定例会。  
2008.6.10 土木事務所にてプレゼンを行い、剪定に対する見解をもらう。  
2008.7.4 土木事務所と共に現地確認と鹿島氏訪問。  
2008.7.13 プロジェクト定例会。  
2008.7.25 区政推進、土木事務所との打合せ。  
2008.8.17 プロジェクト定例会。  
2008.9.12 土木事務所にて剪定希望対象樹木へのヒモ付けの許可をもらう。

2008.9.14 プロジェクト定例会。  
2008.10.7 かなざわ森沢山の会と合同で剪定対象樹木にヒモ付けを行う。  
2008.10.12 プロジェクト定例会。現地にて道標、説明板、石碑の設置場所を検討する。  
2008.10.21 土木事務所と現地にて剪定希望対象樹木の確認。  
2008.11.9 プロジェクト定例会。  
2008.11.14 鹿島家を訪問。石碑の歴史を説明させていただき移設の最終的な承認を戴く。  
2008.11.21 区政推進、土木事務所との打合せ。  
2008.12.12 文化財課、区政推進課と鹿島家を訪問。石碑の保存状況調査。  
2008.12.14 プロジェクト定例会。  
2008.12.23 神奈川県オリエンテーリング協会とポスト移動先について現地にて打合せ。移設先決定。

\*\*\*\*\*

2009.1.6 区政推進、土木事務所との打合せ。  
2009.1.11 プロジェクト定例会。  
2009.2.2 鹿島家より石碑を運び出す。能見堂跡に仮置き。  
2009.2.8 プロジェクト定例会。  
2009.2.9 土木事務所、業者とともに能見堂跡にて石碑の設置場所確定作業。  
2009.2.20 区政推進、土木事務所との打合せ。  
2009.3.8 プロジェクト定例会。  
2009.4.12 プロジェクト定例会。  
2009.4.14 土木事務所と説明板についての打合せ。  
2009.4.22 土木事務所にて業者と説明板（一次発注分）についての打合せ。  
2009.4.24 県立金沢文庫と種々相談。開港資料館にて借用資料の調査。

2009.5.10 プロジェクト定例会。  
2009.5.25 土木事務所にて業者と説明板（二次発注分）についての打合せ。  
2009.6.14 プロジェクト定例会。  
2009.7.12 プロジェクト定例会。  
2009.7.19 開港資料館にて必要な写真入手。横浜歴史博物館と相談。  
2009.8.4 土木事務所にて説明板の校正。区政推進に広報への掲載依頼。  
2009.8.9 プロジェクト定例会。  
2009.8.25 土木事務所にて説明板の最終校正。  
2009.9.11 現地にて説明板の設置場所を決定し、業者による縄張り。  
2009.9.13 プロジェクト定例会。  
2009.9.20 現地通行量調査実施。  
2009.9.29 工事中の現場を視察し、説明板の設置向きなどの誤りを指摘。  
2009.10.8 区政推進課より、広報紙での案内ができない旨の回答あり。  
2009.10.11 プロジェクト定例会。  
2009.10.16 能見堂南小学校志賀校長と歴史授業の相談。  
2009.11.8 プロジェクト定例会。  
2009.12.13 プロジェクト定例会。  
2009.12.15 能見堂南小学校にて金澤シティガイド協会と共に歴史授業の相談。  
2010.2.14 プロジェクト定例会。  
2010.2.15 陳情書の原稿を金沢文化協会他3団体へ発送（後に陳情取消し）。  
2010.2.19 土木事務所にて今後のすすめ相談。  
2010.3.2 能見堂跡地にて土木事務所と二次剪定の範囲確認。  
2010.3.14 プロジェクト定例会。

## 付録 - 2 【掲載資料提供】

- 【図 1】 神奈川県立歴史博物館
- 【写真 7】 横浜開港資料館
- 【図 13】 遊緑地設計（有）

付録-3 【関係者名簿】(敬称略)

○協力を頂いた団体

金沢区役所区政推進課、金沢土木事務所、横浜市教育委員会文化財課、横浜市環境創造局環境施設部、横浜市環境創造局環境整備部、横浜市歴史博物館、横浜開港資料館、横浜市立能見台南小学校、関東学院大学工学部建築学科中津研究室、神奈川県立金沢文庫、神奈川県立歴史博物館、神奈川県教育委員会生涯学習部スポーツ課、神奈川県オリエンテーリング協会、ガールスカウト神奈川県第53団、大樹建設株式会社、遊緑地設計有限会社、NPO 法人横浜金沢文化協会、NPO 法人かなざわ森沢山の会、NPO 法人横濱金澤シティガイド協会

○協力を頂いた個人の方々

今井 康博、岡田 浩、小幡 正雄、鹿島 幸子、鹿島 洋光、加藤 辰雄、斉藤 司、酒井 宣子、志賀 光雄、高木 信行、永井 晋、山田 善一、山中 裕、渡邊 紀之

○プロジェクト会員

相川 忠久、飯塚 玲子、石川 章、小俣 悦男、後藤 政也、小泉 日奈子、小山 和夫、斉藤 勝次、白井 俊一、鈴木 祥三、鈴木 稔、関口 昌幸、高橋 寛和、高橋 智、田中 宏一、田中 孝文、竹村 勝朗、竹内 和夫、塚田 武男、坪井 駿三、中津 秀之、福井 優博、増田 繁穂、本山 令夫、若月 裕一、若松 敏男、渡辺 光男、渡部 和博

**よみがえれ！能見堂**

**能見堂跡地再生プロジェクト活動報告書**

**2010(平成22)年10月31日発行**

**編集／発行 金沢街づくりの会・能見堂跡地再生プロジェクト**

**印刷 シーオーエル有限会社**